

### 神戸布引ハーブ園

## 多彩なイチゴメニュー提供

「神戸布引ハーブ園／ロープウェイ」は17日から、イチゴのスイーツやドリンクを楽しむ「ストロベリー セレクション」＝写真＝を催す。レストラン「ザ・ハーブダイニング」やカフェラウンジ、テラス「ザ・ヴェランダ神戸」で多彩なメニューを提供する。



屋外の広場では3月8日から、ドイツビールやワイン、オリジナルのハーブソーゼージ、仔羊のプロシエトなどが並ぶ「ハーブマルシェ」も。さらに同15日からは「ガーデン フェスト2025＝スプリング」＝手ぶらで楽しめる「ガーデンピクニック」(1日10組限定、要予約)や「宝探しゲーム」

などで、3月中旬から順次咲くミモザやヤマザクラ、チューリップなどのガーデンで、ハンモックなどで優雅に過ごせる。www.kobeherb.com ☎078・271・1160

### 六甲高山植物園

## 早春の花楽しめる特別開園

早春の花に会いに来ませんか。冬季休園中の六甲高山植物園は22日～3月9日の土日・祝日、特別に開園する。パイカオウレン＝写真＝やセツブンソウやマンサクなどが雪の中で凍と咲く姿に、



春の息吹を感じられる。パイカオウレンは、NHK連続テレビ小説「らんまん」主人公モデルの牧野富太郎博士が愛した花としても有名。8回入場券の特別割引販売や早春の花のガイドツアー(10時半、13時)もある。

同8日には沖和之さんによる「沖先生のふらふら園内ガイド」を開催。期間中、来園者にオリジナルカレンダーが贈られるほか、初日のみ先着100人にマイヅルソウの苗もある。

シーズンオープン(3月15日)新企画「え!こんな近くに!?高山植物」などが始まる。☎078・891・1247

### 六甲ガーデンテラス

## 青春時代に戻れるフェア

標高880mから大パノラマの眺望する「六甲ガーデンテラス」は、甘酸っぱい青春時代に戻れる体験型イベント「ウチらはずっと青春フェア」を開催している。3月30日まで。



2000年代に大流行したキャラクター「一期一会」とコラボレーション。フレームに「一期一会」のイラスト、ポエムを使用した、ここでしか撮影できないプリントシール機や、フォトスポットがある＝写真＝。

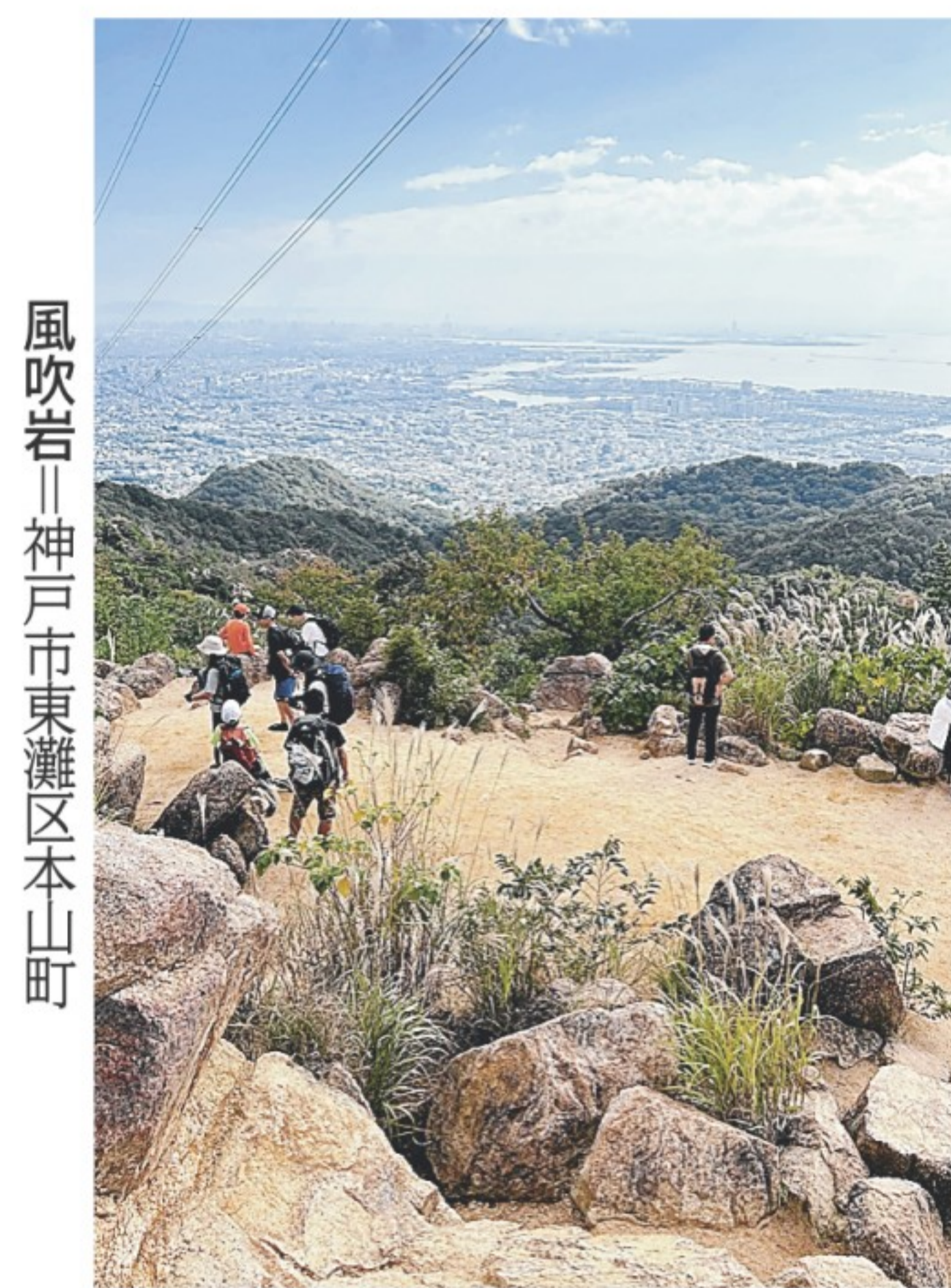
また、アンケートで募った皆のほろ苦い青春エピソードを展示する「みんなの黒歴史36」や現代歌人、木下龍也の「黒歴史短歌」などがある(「六甲枝垂れ」入場料が必要)。

青春をイメージした期間限定グルメやチョコレートフェアもあり、イベントオリジナルグッズも販売している。☎078・894・2281



六甲山にまつわる自然、環境、文学、食などの多彩な催しを大学のカリキュラムに見立てて情報発信する「六甲山大学」。山の旬の情報を通して、六甲山の魅力に迫ります。(毎月第3日曜日に掲載します)

# 小説「バリ山行」ルートへ



風吹岩＝神戸市東灘区本山町

この王道ルートには、六甲山らしい風化花崗岩の露岩帯が続き、ロックガーデンと呼ばれる、近年は「映え」スポットとしても知られている。景色がいい風吹岩や東おたふく山を通り、最高峰を越えて有馬温泉に下れば、六甲山の魅力がたっぷり味わえる。しかし物語では、主人公は東おたふく山を越えた後、同行者によって、最高峰に向けて



ロックガーデン＝芦屋市

「バリ」に連れて行ってもらうことになるのだが、そこから先の手に汗握る展開はぜひ小説を読んでいただくとして、物語が投げかけるテーマは、何とも奥が深い。登山とは? 生活とは? 仕事と趣味のバランスとは? 生きがいとは? 人生とは? ...。読む人によって受け止め方はさまざまだろうが、いろいろなことを考えさせられる。そして考えながらまた、山へ行きたくなるのだ。そんな小説「バリ山行」、お薦め

## 考えさせられ、また行きたくなる

「バリ」とは、バリエーションの略。小説に登場する最初の「バリ」は、主人公が六甲山系にある無数の登山路の中でも特に人気が高い王道ルート「芦屋川」ロックガーデン「風吹岩」雨ヶ峰「東おたふく山」最高峰(芦屋市、神戸市)から外れた道を行く山行のときだ。

「バリ」に案内され、「ずらんと」に案内され、「ずらんと」と盛り上がるの

だが、そんな「バリ」に対して否定的な登場人物も。加藤文太郎が取りかかっている、ソロでちよつと憤れた連中が動いていて、あいつが勝手に勝手に事故起こすねん」とチクリと言う。

主人公はその後、本格的な「バリ」に連れて行ってもらうことになるのだが、そこから先の手に汗握る展開はぜひ小説を読んでいただくとして、物語が投げかけるテーマは、何とも奥が深い。

登山とは? 生活とは? 仕事と趣味のバランスとは? 生きがいとは? 人生とは? ...。読む人によって受け止め方はさまざまだろうが、いろいろなことを考えさせられる。そして考えながらまた、山へ行きたくなるのだ。そんな小説「バリ山行」、お薦め

## 根岸真理が案内 山の四季便り

ねきし・まり アウトドア系のフリーライター。1961年、神戸市須磨区生まれ。六甲山を活動拠点とし、六甲山大学広報委員。著書に「六甲山を歩こう」など。



足元の岩が突き立った狭い黒岩谷西尾根



ロープが垂らされた黒岩谷西尾根

## 登山と純文学 共通点は「ただ美しい」



「登山も純文学も正解がない」と話す松永K三蔵さん＝神戸市中央区雲井通7

松永K三蔵さん 神戸で講演

昨年、六甲山系を舞台にした小説「バリ山行」で芥川賞を受賞した松永K三蔵さん＝西宮市＝が、六甲山大学事務局が神戸・三宮の商業施設「ミント神戸」で開いた「ミントサロン」で「山と、純文学への誘い」と題して講演。市民ら約50人が耳を傾けた。要旨は次の通り。(まとめ・安藤真子)

西宮市で育ち、中学・高校時代には学校で六甲山登山があったため、山がある風景が当たり前だった。「バリ山行」は育った町から生まれた物語で、実際に登山で使っている道具を反映させた部分もある。

山登りと純文学の二つに共通するのは「答えがなく、楽しいことばかりではない

が、理解を超えて、ただ美しいという点」。山に求めるものは「リフレッシュ」や「山ごはん」などそれぞれだが「自分との対話」があげられる。世界とは、人間とは何かを問う純文学と通じるものがある。

一人で山に登ることで、あるのは自分と道だけという状況が生まれる。登りながらも日常や家族、悩みについて考えてしまうのは山の魅力であり魔力。東おたふく山や苦楽園尾根に行くこともあり、ほとんどの場合はルートに沿って登る。

提唱する「オモロイ純文運動」は、小説の面白さや敷居の低さを広めるもので、ゲームなどさまざまなコンテンツを気軽に楽しむことができる時代に立ち向かうもの。今後も地元を舞台にした小説を書いていく予定で、次作は「街」を舞台にしたもの。これからも物事の本質を描き続けたい。



六甲山大学・情報凝縮サイト  
653daigaku.com



わたしたちは 六甲山大学の活動を応援しています

協賛企業



(順不同)